慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	アダム・スミスの生涯（三）
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.4 (1922. 4) ,p.566(134)- 579(147)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220401-0134

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

る。到底我等がこれ等の疾病を豫防する方法を知らないとしても、少くともこれをその初期に於いて、疾病の犧牲としない以前に、知る方法があれば、我々は大多數の患者の病勢を抑止し、個人の愉樂を向上せしめ、勞働生活を延長することが出來ると云つてゐる。（S. S. Goldwater, loc. cit.,）（未完）

アダム・スミスの生涯（三）

高橋誠一郎

十

スミスは斯く着々として改良進歩の實を擧げつゝあるグラスゴオ大學の學窓より出でゝ殷盛なる市場に漲れる熱烈なる空氣を呼吸すると多かりき。彼れが初め學生としてグラスゴオに赴ける時、同市は猶ほ貧弱なる小市なりき。而も彼れが教授として再び同市に來れる時、そは既に商工業隆興の氣運に向ひつゝありしなり。スミスはグラスゴオに在つて啻だに教ふる人たりしのみならず、又た學ぶ人たりしなり。時代と場所とは彼れに教ふる所極めて大なりき。彼れにして永く牛津に留まれりとせば、恐らく彼れは終に經濟學者たることなかりしなる可し。彼れにして若し其の少壯の長年月をグラスゴオに送ることなかりしならんには、彼れは決して斯くの如く、拔群の經濟學者たること能はざりしなる可し。次第に濃密と爲りつゝある新興クライド河貿易の問題と、同市の剛邁にして聰明なる商人の間に這般の問題に關して日々行はれつゝある議論の裡に彼れは偉大なる經濟學者と爲りつゝあるなり。

當時クライド最大の商人の一人にして又た市長たりしアンドルー・コックレーン（Andrew Cochrane）は一千七百四十年代に貿易の本質及び原則を研究するの目的を以て毎週一回開催の倶樂部を創設せり。是れ恐らくは世界最初の經濟協會なりしなる可し。グラスゴオに居住するに至りて後、其の一員と爲れるスミスはコックレーンと深交を締するに至り、後、「國富論」の資料を蒐集しつゝあるの時、其の教示に負ふ所あるを承認せりと云ふ。（Dr. Alexander Carlyle, Autobiography, ed. by John Hill Burton, 1860, p. 73）。

市長コックレーンを首めとしてグラスゴオ市民は貿易上の拘束撤廢を渇望せりと雖も、而もそは鐵及び亞麻絲の如き原料品の輸入に對するものなりしき。サー・ジエームズ・スチュアートも亦た近隣に居住せるが故に、恐らくは此の倶樂部の一員たりしなる可きも、彼れが赦免せられて大陸の流寓より歸れるはスミスがグラスゴオ大學の教職を辭する僅かに數ヶ月以前なりしを以て、主張を異にせる此の二個の經濟學者が倶樂部の集會に於て會合するの機會は蓋し存せざりしなる可し。而も恐らくスミスの意見は彼れ等市民の間に於けるよりも大學生の間に先づ傳播するに至りしものなる可し。ダッガアド・スチュアート談りて曰く、「最初熱心に彼れの主義を採用し、而して國内の此の地方に其の根本原理に關する知識を普及せしめたる者」は學生なりきと。

スミスは又た一千七百五十二年、即ち彼れがグラスゴオ大學に赴任せる翌年、同志と共に「グラスゴオ學會（Literary Society of Glasgow）」を興せり。同會は大學教授の外に學術に趣味を有する少數の商人若しくは鄕紳、例へばデウイッド・ヒユーム、史家ダルリンプル、好古家ジョ

ン・カルアンダァ（John Callander）、印刷業者ロバアート・フールヅ、發明家ジェームス・ワットの等を會員中に有せり。同學會は十一月より五月に亘り毎木曜日午後六時より集會せり。スミスは一千七百五十三年一月二十三日、同學會に於てヒュームの Essays on Commerce 中の二三を論評するの文を朗讀せり。（Notices and Documents illustrative of the Literary History of Glasgow, published by the Maitland Club, p. 132）。是れ等の論文は恰も其の當時公にせられたる所なるが、スミスは恐らく其の出版以前に之れを閲讀せるものなる可し。蓋し、ヒュームは其の前年九月二十四日スミスに書を裁して、是れ等商業上の論文が合卷せらる可き Essays, Moral and Political. の舊版に就きて添削す可き點あらば指摘せられんことを求めたるを以てなり。（J. H. Burton, Life and Correspondence of David Hume, 1846, I p. 375）同學會の討論は屢々激烈を極たり。最も光彩有る討論家たりしミラー教授と常識哲學の開祖リード博士との間に行はれたる形而上學的、神學的論戰は當時に在りて頗る有名なるものなりき。而て傳說は又た吾人に告げて言う、スミスは會つて或る問題に關し全會を敵として終夕奮鬪し、終に多數の爲めに其の主張を破られて「論破せられたるも、論服せしめられず（Convicted but not convinced）」獨りと呟けりと。（Strang, Clubs of Glasgow, 2nd ed. p. 314）。

更らに陽氣なりし他の倶樂部は數學教授ロビン・シムソンの統ぶる所のものなり。「數學者は彼れ等を下界の猜忌と自負と奸計との上に高く座せしむる溫順にして芽出度き特性を有す」と做すの觀念を先づスミスに與へたるものは彼れがシムソンより受けたる印象なりき。シムソンは其の生涯の五十年の殆んど全部をグラスゴオ・カレッヂの構内に送り、一千七百六十八年、娶らずして逝けり。彼れは各日を仕事と睡眠と、校門の酒亭に於ける食事と、步數を算定せる校庭の散步との間に正確に分てり。彼れは幾何學上の勞作を終りて後、校門の酒亭に入りて一二の教授とホイスト（一種の骨牌技）の勝負を行ひて其の日を終るの習なりき。此のさゝやかなる交遊は終に正規の倶樂部と爲り、部員は毎金曜の夕、此の酒亭に於て晩餐を共にし、土曜日毎に一哩を隔てたる、當時猶ほ邊鄙なる村落に過ぎざりしアンダーストーン（Anderston）に赴きて、此の地の酒亭（changehouse）に於て常例の親子煮（chicken-broth）の一品料理と赤葡萄酒の大盃とを以て正餐を喫し、次いで卓布を撤してパンチを傾けながらホイストの勝負を行ふなり。スミスは骨牌技の相手として適當なる人物にはあらざりき。勝負の最中に於て一つの想念が突如として其の念頭に浮びたる時、彼れはコールを行ふを廢するか、或ひ怠るの常なりき。（Ramsay of Ochtertyre, Scotland and Scotsman in Eighteenth Century, i. 468）。ホイストの勝負終りて後、彼れ等はシムソンを中心として愉快に談笑、吟咏して其の會を終るなり。シムソンは美聲を以て希臘の短詩を今樣に吟誦するの常なりき。此の集會に於て禁物と爲れる唯一の話題は宗教なりき。シムソン逝きて此の會合も亦た消滅せり。

シムソン倶樂部（Mr. Robin Simson's Club）若しくはアンダーストーン倶樂部と稱せらるたる此の小集の如く質樸なる生活の裡に高尙なる思索に耽れる著名なる人物より成れるものは蓋し稀れなる可し。「ユークリッド」の系論を復活せしめたる大數學者シムソンを園遶して、近代化學

の創始者ジョセフ・ブラックと蒸氣機關の發見者たる其の青年助手ジェームズ・ワットは經濟學の始祖と相並んで座せるなり。後年ワットはスミスを以て特に同倶樂部の主要なる人物の一人として擧げ、而して彼れ等の談話は「若き人々に普通なる題目の外に、主として學問上の話題、宗教、道德、美文學等に亙れり、而して余は未だ曾つてカレッヂに出席したることなく、又た其の當時は一個の職人に過ぎざりしが故に、彼れ等が孰れも皆な余の先輩たりし這般の問題に對して初めて余の心を傾かしめたるものは此の會話なりき」と談れり。(Samuel Smiles, Lives of Boulton and Watt, 1865, p. 112)、彼れ等の話題中に宗教を加へたる點に於てワットの記憶は正しからざるが如し。即ちTraill教授は、「同倶樂部に此の平和を破る問題を誘入せんとするの擧は總べて嚴然且つ斷乎として制止せられたり」と說けるを以てなり。

十二

スミスは其のグラスゴオ在住中、屢々休暇を利してエヂンバアロオを訪ひ、此の地の舊友と永く親密なる關係を持續せり。スミスは其の友人等と共に當時蘇國に於て熾烈なりし文學上、科學上及び社會上に於ける革新の計畫に參加せり。此の新運動の中心たりしものはエヂンバアロオにして、其の社會的知識的指導者たりし人はスミスの舊友にして又た恩人たるケームズ卿なりき。其の他、エヂンバアロオにはヒユームあり、ファグソンあり、兩ダルリンプル(Sir David of Hailes 及び Sir John of Cousland)あり、ロバアートソン亦た其の同僚ジョン・ホームと相携へて每週同市に來り、ギルバアート・エリオット(Gilbert Elliot)は一千七百五十四年を以て議會に入れるも、休會中は常に首府の消息を齎して歸省せり。殊にスミスの愛好せる者にEpigoniadの作者たる奇人ウイルキィ(Wilkie)あり。彼れは數哩を隔てたるRatho教區の會師たり。彼れは普通の農夫姿にて自ら其の寺領地を耕耘するの常にして、曾つて此の地を過ぎて、彼れを單純なる農夫と誤てる化學者ローバック(Dr. Roebuck)に對ひ、セオクリトスを引用して之れを驚愕せしめたることあり。彼れは常に曰く、スミスはヒユームよりも遙かに大なる獨創と構想とを有す、而してヒユームは單に勤勉と見識とを有するに過ぎざるも、スミスは勤勉と天才とを有すと。

尙ほスミスのエヂンバアロオに於ける友人中に、曾つて彼れの學生たりしウリアム・ジョンストーン(William Johnstone 後のサー・ウリアム・バルトニィ Sir William Pulteney)あり。今日に傳存するスミスの書信中に一千七百五十二年一月十九日附を以て當時商務局に奉職せるジェームズ・オスワルドに彼れを紹介せる一文あり。(Memorials, op. cit., p. 124)。彼れは後一千七百九十七年に至り、英蘭銀行の正貨支拂停止に關して行へる其の演說中に於て、スミスは「現代を說服し、次代を支配するなる可し」と云へる記憶す可き言辭を引用せり。

言ふまでもなくエヂンバアロオに於けるスミスの友人中、其の第一に擧ぐ可きものはデヴィッド・ヒユームなり。兩者の交際は早く一千七百三十九年を以て始まれるの觀あるも、彼れ等が個人的に親しく相交るに至りしはスミスがグラスゴオに定住せる後のことなる可し。スミスはグラスゴオに移りてより間もなくヒユームと通信を開始し、最初に用ひたるdear sirの敬語は軈がて親密を表示するmy dearest friendに變れり。ヒユームは屢々グラスゴオにスミスを

訪ふの約を爲しながら、之れを履行することなかりしも、スミスはエヂンバアロオに來る毎に、ヒユームと共に費す時間は次第に多きを加へて、終にはヒユームの家を以て彼れがエヂンバアロオに於ける本據地たらしむるに至れり。

一千七百五十二年、スミスは叛亂後ヒユームを幹事（Secretary）として復活せるエヂンバアロオ哲學會（PhilophicalSociety）の會員に擧げられたるも、同會の議事錄はスミスの活動を記する所なし。而も彼れは一千七百五十四年を以て成れるシレクト・ソサィチイ（Select Society）の創立に際して重要なる役割を演ぜり。同會は曾つてジエームズ・オスワルドと共に佛國を旅行せる畫家アラン・ラムゼー（Allan Ramsay）によりて提案せられたるものにして、當時佛國の大都市に普く存したるアカデミィに倣ひて創設せられ、半ば時事問題の討論會たると共に、半ばは蘇國の學問、藝術及び產業の振興を目的とせる愛國的の性質を具有せり。スミスは最初にラムゼーの相談を受けたる一人にして、一千七百五十四年五月二十三日の發起人會に於ては、曾だに之れに出席せる十五名の一人なりしのみならず、提案の趣旨を說明するの任務を託せられたり。同じく是れに出席せるカーライル博士は曰く、スミスが演說の形態を以て行へる言說を聽けるは惟り此の場合のみなるも、而も余は殆んど演說家としての彼れの力を認むること能はず、彼れの音聲は錆び、其の表明は不透明にして吃音にすら庶幾きものありと。（Carlyle, op. cit., p. 275）。

スミスは一千七百五十四年六月十九日に開催せられたる其の第二例會の座長たりしが、次回の討論題として（一）外國新敎徒の一般的歸化は不列顛に取りて有利なる可きや否や、及び（二）穀物輸出に對する保護金は農業に對すると等しく商工業に取りても亦た有利なる可きや否やの二問題を發表せり。（Minutes of Select Society, preserved in the Advocates' Library, Edinburgh）。其の外、貧窮、雇傭契約、限嗣相續財產、銀行業、リンネル輸出保護金、ウイスキー稅、養育院、借地年限、道路修築、地代として主人に支拂はる可き土地收益の割合、地代の金納及び穀納、地代支拂の時期、大小農場の利害、奴隸勞働及び自由勞働の優劣、愛蘭土併合の得失等の如き幾多經濟上若しくは政治上の問題の討議せられたるを見る。同會は每週金曜午後六時より九時に亙りて開會し、創立後、幾許もなくして知名の士一百三十人を會員とするに至れり。一千七百五十五年、即ち創立の翌年、ヒユームは當時羅馬に在りしラムゼーに書を寄せて、同會は國民的關心事と爲るに至り、老若、貴賤、賢愚、僧俗、悉く皆な其の會員たらんことを欲し、入會志望者の運動盛んなること宛も代議士選擧に讓らずと。（John Hill Burton, The Scot Abroad, 1864, II.p. 340）。

然れども協會は討論のみを以て滿足せるものに非ず。同協會は年々九名の特別委員を任命して蘇國の藝術、科學、工業及び農業奬勵策を實行するの任に當らしめたり。同委員會は本會の例會より離れて別に每月一回集會し、委員の大多數は貴族及び鄕紳なりしが爲め、殆んど全く其の事務は農業上の討論のみに限られたり。而して是れ等の討論をして更らに一層有效且つ有利ならしむるが爲めに、一千七百五十六年、實地の經驗ある農民の一定數を會員に加ふるの決議を行へり。斯くの如く協會の事業の範圍を擴張するは其の發起者ラムゼーの贊成せざりし所なるが、而も其の協力者たりしスミスは奮つて

此の新計畫に參加し、其の實行に際して主要なる任務を行へり。彼れは最初此の計畫の實行を委託せられたる九名の理事中の一人には非ざりしも、而も數ヶ月後に至り、其の事業が各々五名より成る別箇の四委員會の間に分割せられたる時、スミスは是れ等の委員を選出するの目的を以て、特に任命せられたる五名より成る他の委員會の一員たると同時に、又たヒュームと共に四實行委員會の一たる美文學及び批判に關するものに其の名を連ねたり。（此の點に於てハーストはレーの所述を誤讀せるが如し。Hirst, op. cit., p. 106. 參照）同協會は十分なる寄附金の醵集を行ひ、一千七百五十五年四月十日の各新聞紙上に金銀の賞牌並びに當時としては巨額の賞金を提供して殆んど天下のあらゆる事項に對して奬勵を行ふ旨を公にせり。而して賞典の數は逐年增加し、一千七百五十九年には一百四十六に達し、野羔皮手袋、麥稈帽子、フェルト帽子、石鹼、乾酪、蘇國產の柳より製出せらる可き蠟燭等に至るまで各種工業の奬勵に充當せらるゝに至れり。

彗星の如くに現れたる此のシレクト・ソサイチーは燦爛たる光輝を放つこと約十年にして忽然其の姿を消せり。其の消滅は一般にチャァールス・タウンズンド（Charles Townshend）の譏刺に起因するものなりと認めらる。即ち彼れは雄辯なる會員の討論を傾聽せるも、而も此の英國人の耳は殆んど其の一語をすら了解することを能はざりき。是に於て乎、彼れは問ふて曰く、「御身等は英語を書くことを學びながら、何が故に之れを話すことを學び得ざるか」と。（Lord Campbell, Lives of the Chancellors, vi. 32）。一千七百六十一年、トーマス・シェリダン（Thomas Sheridan）はエヂンバアロオに來りてカアラッバアス・クロース（Carrubber's Close）なる聖ポロ會堂（St. Paul's Chapel）に於て約三百名の紳士に對し、英語演說法の講義を十六回に亙りて行ひしが、間もなく、シレクト・ソサィチイは英語奬勵の目的を以て特殊の團體を組織し、倫敦より發音法の敎師を聘せり。然も斯くの如き企圖は國民的自負を害することゝ爲り、初め新奇と愛國的情操とに由りて人心を引ける同協會は一千七百六十二年を境として、其の隆盛の頂點を越え、寄附金の申込者は其の名を撤回し、若しくは其の拂込を拒絕せるが爲めに、一千七百六十五年には僅かに六個の懸賞を行ふに足るの基金を有するに過ぎざるに至りて終に解體を見ることゝなれり。

十二

アダム・スミスが主要なる役割を演じたる他の注意す可き計畫は前者と等しく蘇國の愛國的情操に發露せるものにして、擡頭しつゝある蘇國著作家の著書に對し、同情ある批評を加へて之れを奬勵するが爲めに創刊せられたる Edinburgh Review 誌の出版なり。主幹は後年、英國大法官たるに至りし當年の青年辯護士アレグザンダー・ウッダアバーン（Alexander Wedderburn）にしてロバァートソン、ブラー、ジーアデイン及びスミス等は其の寄稿家たり。（Memoirs of Lord Kames, 2nd ed., 1814, i. 233）。スミスは一千七百五十五年七月に現れたる初號にジョンソン氏の辭典の評論を、翌五十六年一月の第二號にはA Letter to the Authors on the General State of Literature in Europe. を寄せたり。（A Catalogue on the Library of Adam Smith, ed. by James Bonar, 1894, p. xi.）。

彼れはジョンソン氏の辭典を批評して曰く、「吾人は本書を取りて他の辭典と比較するの時、

其の著者の功績頗る著大なるを認む」と。在來の英語辭典は難解の言詞及び術語を解明するを以て主たる目的とせり。然るにジョンソンは其の以上に著しく彼れの企圖を擴張して、威信ある著書よりの範例を以て證明せられたる各語の種々なる意義を遺漏なく聚集せり。然れども スミス惟へらく、著者にして其の使用を是認せられざる諸語を鑑別すること更らに多く、而して一語の種々なる意義を列擧するに止めずして、是れ等の諸意義を等級に排列し、主要なる意義を附屬的のものより區別せしならんには、一層の完成を見たるなる可しと。斯くて彼れは自己の要求する所を例示するが爲めに自ら「機智（Wit）」及び「滑稽（Humour）」に關する二個の項目を草せり。彼れは「滑稽」を以て常に偶發、不定のもの、性向上の疾病なりと思惟し、そは屢々機智に比して面白味大なることある可きも、之れに比して遙かに劣等なるものと思料せり。曰く、「機智は計畫せられ、工夫せらるゝ所多く、更らに正規的且つ人爲的なるものを表明し、滑稽は一層粗野、放漫、狂妄且つ幻想的なるもの、自ら支配し又たは抑制し得ざる發作によりて生じ、全然眞の慇懃と相容れざるものを表明す。滑稽は往々機智よりも面白味あるものなりと稱せられたるも、尙ほ機智の人が滑稽の人の上に在ること、恰も紳士が道化者の上に在るが如し、而も道化者は往々にして紳士よりも人を樂しましむるものなり」と。彼れは蘇國に於ては會話に際し正確なる言語の標準存せざるが故に、直ちに此の辭典の有用なることを感せらるゝに至る可しと思惟せり。而もジョンソンは本辭典の改版に際しスミスの批評に對して何等の注意をも拂はざりしが如し。

スミスは「エヂンバアロオ評論」第二號の附錄に現れたる「編輯者に與ふるの書」に於て、彼れ等は其の紙面を滿すに、百項中の一項も之れに對して機會を與へたる著作の公表後二週間と想起せらるゝことなかる可き瑣々たる出版界目下の消息の一切を以てするよりも、寧ろ一般社會の爲めに其の注意に價する諸書の紹介を掲ぐるによりて遙かに之れが感謝を受く可きものなるが故に、「恰も學界に地歩を占めんとするの擧に着手せるに過ぎざる」蘇國に於て出版せられたる諸書に關する記事のみに限らず、其の範圍を限定することなく、一廉の價値ある一切の蘇國出版物を掲ぐることを期すると共に、國外に於て出版せられたるものと雖も、總べて永續的價値あるものは之れを考査するを以て同誌の壽命を持續せしむる上にも有用なるものなりと主張せり。次いで彼れは現代の大陸文學評論に筆を進めたり。彼れの謂ゆる大陸文學は即ち佛蘭西文學を指すものなり。伊太利亞は既に文學を產することなく、獨逸は單に科學のみを產せり。而も篇中に於て英佛文學の比較を行へる一二の章句を取りて觀るに、彼れは屢々非難せらるゝが如く、不當に英國文學を蔑視し、佛國文學を盲目的に讃美する者に非ざりしを知る可し。

即ち彼れ曰く「想像力と天才と構想力とは英國人の長所にして、趣味と明察と適合と整頓とは佛國人の長所なるが如し。古英國詩人に於て、シェクスピーア、スペンサー及びミルトンに於て、破格と放縱との裡に讀者を驚かし魅惑して、其の天才を嘆美せしめ、其の述作の不齊に對する一切の批評を以て取るに足らざる些末のものとして蔑視せしむるものある無邊、廣大にして超自然なる想像の力を認むること多し。著名なる佛國作家中に於て斯くの如き天才の閃發に遭遇することはさまで多からず。而も之れに代る

に、かの想像の強烈にして刹那の閃光の如くに心胸を射るものなきが故に、從つて無稽若しくは不自然なるものによりて判斷を裏切り、又たは文體の著しき不齊若しくは順序の連絡なきが爲めに注意力を疲弊せしむるが如きこと嘗つてなく、而も快適にして興味あり、且つ相關聯せる對象を以て心を樂ましむる情操及び語法の均等にして練達せる雅致と連結せる正しき排列、正確なる適合と恰好とに逢着するなり」と。

彼れは韻文より哲學に移り、佛國のアンシクロペヂストは自國のデカルト（René Descartes）哲學の體系を棄てゝ、英國のベーコン（Francis Bacon）及びニュートン（Issac Newton）の體系に移り、而して彼れ等は英國人自身よりも其の體系の有力なる說明者たることを示しつゝあるを觀たり。彼れは佛國「大百科全書（Grande Encyclopédie）」に就きて長文の評論を試みたる後、ビュフオーン伯（Comte de Buffon.）及びレーオーミイウル（René Antoine Ferchault de Réaumur）の科學上の近著を紹介し、而て形而上學の著作中に於ては僅かに是れよりも數ヶ月以前に現れたるルッソー（Jean Jacques Rousseau）の有名なる「人間不平等の起源及び根柢論」（Discours sur l'origine et les fondements de l'inégalité parmis les hommes, 1754.）に論及し、ルッソーは「些末なる哲學的化學並びに其の文體の助けによりて放縱なるマンドヴイル（Bernard de Mandeville）の原則及び觀念をしてプラトーの倫理學の純正と率直の總べてを有し、而して稍や極端に馳せたる唯一の共和主義者の眞精神たるの觀あらしめたり」と說けり。彼れは此の書の概梗を記し、其の二三の代表的章句を翻譯し、而して「單に余はルッソー氏が其の一市民たるの光榮を有するジューネーヴ共和國に對する獻本の詞が心地よく、勇ましく又た洵に正當なる頌讚の辭たることを附言するに止む可し」と稱して擱筆せり。

スミスは理論上に於ては常に共和主義者たりしの觀あり、而して彼れは慥かに一切の合理的自由を愛するに於て共和主義者の眞精神を有したり。其の學生にして又た終生の友なるプハアーン伯曰く、「彼れは其の政治上の原則に於て共和主義に幾く、統治者の世襲的繼承は單に共和政治が功名心若しくは相爭ひつゝある黨與によりて輸致せられたる絕對支配權によりて動搖せしめらるゝを防止するが爲めにのみ必要なるが故に共和政治を以て君主國の綱領として思料せり」と。（The Bee, June 1791.）。

新刊紹介

田中萃一郎抄譯「民主主義批判」

四六版一四〇頁
定價金壹圓五十錢
竹內書店發行

婦人に對する男子の所有權を承認する者は常に「不貞」を云々し、財貨に對する個人の所有權を承認する者は往々「盜賊」と叫び、創作に對する所有權を尊重する者は又た屢々「剽竊」を呼ぶ。對象こそ異なれ、孰れも所有權に執着する者の聲である。世間には財產權の廢止、若しくは然らざるまでも其の嚴厲なる制限を主張するの論者にして思想上の私有權に執着し拘泥するものが甚だ多い。

田中萃一郎博士は曾つて大阪每日新聞紙上（大正九年四月）に「民主的產業制」と題して英人マロックが一千九百十八年に公にした「純粹民主々義限界論」の第二第三兩編を任意に抄譯し